



18年度決算の概要

10万3千市民の家計簿



薩摩川内市の平成18年度決算概要をお知らせいたします。

薩摩川内市の平成18年度決算概要をお知らせします。
平成18年度の一般会計及び特別会計の決算は、歳入歳出差引27億4,119万円の残額を生じ、翌年度に繰り越す財源5億2,726万円を控除すると、実質収支は22億1,391万円となりました。

また、一般会計の市債残高は587億3,293万円と

前年度に比べ29億8,069万円のマイナスとなりましたが、昨年に引き続きまだ多くの市債残高の圧縮が必要な状況です。

今後も、市政改革大綱及び改革アクションプランの着実な実施により、一層の行財政改革の推進に努めます。

平成18年度実施した主な投資的事業

- 土地区画整理事業
(天辰第一地区、川内駅周辺地区、入来温泉場地区)
- 道路整備事業
(一般道路整備事業、林道整備事業)
- 下水道事業
(公共下水道事業、浄化槽事業)
- 公営住宅建設事業
(ハイタウン平佐住宅建設事業、前田住宅建設事業)
- 近代教育設備導入事業
(教育用パソコン購入)
- 小学校大規模改造事業
(亀山小学校、大妻小学校)

平成18年度実質収支

	一般会計	特別会計
歳入	490億4,805万円	383億3,778万円
歳出	473億 471万円	373億3,993万円
差引	17億4,334万円	9億9,785万円
翌年度へ繰り越す財源	2億 572万円	3億2,154万円
実質収支	15億3,761万円	6億7,630万円

●「翌年度に繰り越す財源」とは？

平成18年度に事業を完了できず、平成19年度へ実施を繰り越した事業の財源です。

●「実質収支」とは？

歳入歳出差引額から翌年度へ繰り越す財源を差し引いた額です。実質収支は、平成19年度において繰越金として新たな事業などの財源となります。

市有財産の現在高（平成18年度末）

山林	7,700万9,323.03㎡ (390万5,088.63㎡増)
山林以外の土地	1,663万1,902.43㎡ (6万5,870.11㎡増)
建物	64万6,753.43㎡ (2,631.35㎡増)
有価証券	1億4,507万7千円 (1億4,000万円減)
出資による権利	2億1,308万5千円 (91万円増)
債権	9億6,416万4千円 (1億678万8千円減)
基金	131億2,417万4千円 (1億1,111万4千円増)

※（ ）は平成17年度末との比較増減

市債（市の借入金）の現在高

● 一般会計

土木債	245億3,509万円
臨時財政対策債	100億4,191万円
農林水産業債	77億6,795万円
教育債	42億1,878万円
減税補てん債	36億1,884万円
衛生債	17億6,145万円
総務債	16億5,997万円
商工債	12億5,204万円
民生債	10億3,281万円
消防債	9億7,170万円
災害復旧債	4億5,794万円
臨時税収補てん債	4億5,095万円
公営企業出資債	3億7,008万円
減収補てん債	3億4,507万円
臨時財政特例債	2億2,341万円
労働債	2,494万円
一般会計 合計	587億3,293万円 ①

● 特別会計

公共下水道事業	56億7,657万円
天辰第一地区土地区画整理事業	35億 645万円
簡易水道事業	27億2,567万円
農業集落排水事業	23億1,398万円
川内駅周辺地区土地区画整理事業	8億8,368万円
漁業集落排水事業	5億5,911万円
入来温泉場地区土地区画整理事業	4億4,388万円
国民健康保険直営診療施設勘定	3億3,543万円
公共用地先行取得等事業	1億 540万円
国民健康保険事業	5,920万円
浄化槽事業	5,050万円
介護サービス事業	3,949万円
温泉給湯事業	2,823万円
老人保健医療事業	0円
介護保険事業	0円
特別会計 合計	167億2,759万円 ②

※H18年度からへき地診療所事業特別会計の市債残高は、国民健康保険直営診療施設勘定特別会計に合算してある。

● 公営企業会計

水道事業	63億3,901万円
工業用水道事業	2,014万円
自動車運送事業	100万円
公営企業会計 合計	63億6,015万円 ③

● 全会計の市債残高合計（①＋②＋③）

全会計市債残高 合計	818億2,067万円
------------	-------------

市民一人当たりの市債残高 79万9,053円

前年度	前年度比較
全会計市債残高 845億4,449万円	△27億2,382万円
市民一人当市債残高 82万701円	△2万1,648円